



東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。私は今スイスの、あるクリスチャンのご家庭にホームステイさせていただいております。スイスで最初に入った町はバーゼルです。フランクフルトから急行列車に乗って入ったのですが、バーゼル駅、二つあるんですね。ドイツ側にもスイス側にもあるんです。私はスイス側で降りました。

なぜバーゼルに行ったのか。この町に、第1回シオニスト会議が開催された場所があるからです。そうです。テオドール・ヘルツルが議長となって、ユダヤ人国家を造る必要について、世界中のユダヤ人代表者たちを集めて、そこで演説したんです。その場所に行きました。詳しいことは帰ってからご紹介します。

同時に、ヘルツルが泊まっていたグランドホテルを外側から見るために、ライン川に出て、架かっている橋からホテルを撮影したりして取材をしました。ところが、その橋の欄干に、ベタベタベタいっぱいシールが貼ってあるんです。パレスチナ国家の国旗のシールですよ。パレスチナ国家、まだないんですよ。でも、パレスチナの国旗があって、英語とドイツ語で書いてあるのが「イスラエル、ボイコットしろ！」

イスラエルの自衛戦争によってスイスで、ここバーゼルでも、反イスラエルの学生運動、抗議運動、デモ活動がわんさかわんさか、大変な抗議活動になりました。アメリカの大学で反イスラエル運動が起きただけでなく、ヨーロッパの大学にも飛び火して「イスラエル、けしからん！」と、多くの学生たちがイスラム圏からの留学生たちと一緒にになりながら、非常に過激な運動をしたんです。

私はヨーロッパに来て今4つ目の国ですが、それぞれの国で取材しました。それで分かったのは、ハマスの肩を持っている学生たちの主張の中に、彼ら自身が騙されている主張が、少なくとも4つあるということです。なので、ヨーロッパからの報告ということで、ワンポイントご紹介しておきます。

①「ハマスは宗教色のないパレスチナ国家を造ろうとしている」と、勝手に勘違いしている

絶対にそんなことはありませんからね。ハマスって、イスラム抵抗主義運動の略じゃないですか。彼らは何のためにテロをやめないのか。イスラム原理主義の国を造って、ガザからイスラエル全体、ひいては中東全体に広げ、やがては全世界をイスラム原理主義の国にすることを目標にしているからです。どこを見落としているんですかね、この学生運動は。

②「イスラエルのユダヤ人は、ヨーロッパからパレスチナの地にやって来た移民たちで、先住民族たちを追い出した。彼らはポーランドに帰るべき白人である」と思い込んでいる

「パレスチナ国家」という国が存在したことはありませんからね。イスラエルという国の前身は何かというと、ユダヤ人がこの地に入植して行きますが、パレスチナにユダヤ人の国を造ることは、アラブ側の代表も同意してたんです。そして、パレスチナ分割決議案という国連決議に基づいて造られたのがイスラエルなんです。歴史の事実を全く度外視した空想物語で、反対運動をしていることが分かります。

③「イスラエルが生き延びることができているのは、アメリカ大統領が全面支援しているから」と誤解している

この誤解に基づいて、アメリカは、イスラエルに言うこと聞かせようと思えば何でもできるのにしていない。だからダメ！

イスラエルは独立国家ですからね。アメリカの属国じゃない。別々の国。独立国家。アメリカの意向で立ったり倒れたりする国じゃないんですが、それができると妄想している点において間違い。

④ハマスというイスラム抵抗運動は、世界中の色々な少数者の権利を推し進めていく運動連合体の一部だと考えている

少数者とは、「気候運動、地象問題について、自然環境をもっと良くすべきだ」「LGBTQの権利をもっと認めるべきだ」というような人たちです。

ハマスは少数派で、大きなイスラエルにやっつけられていながら抵抗している。これは、少数者の権利のために戦ってくれている、大きな運動体の中の一つのアイコンであり一部であると考えてるんです。何を言ってるんですかと。

ハマスが天下取ったら、LGBTQの人たち全滅ですよ。皆殺しにしますよ。ハマスがガザで権力を取った時、ガザにいた同性愛の人たちを、高いビルから突き落として殺してるんですよ。動画でも流れてますけど。

つまり、反イスラエル運動で運動している当事者たちは、何か空想物語を生きている、あるいは、そういう物語を信じさせられるような工作のもとに踊らされているという疑いが濃厚ですね。

ということで、ヨーロッパの実態についてもう少し取材を重ね、6月末に帰ります。私は今健康ですが、続けて応援をお願いします。チャンネル登録もお願いします。また、ごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！